

物流って面白い

運送会社設立

社名の「岩手雪運（いわてゆきうん）」よりも、名刺やトラックに入る「FRESH LINE」の印象が強いとよく言われる我が社は、昭和43年6月に父である先代社長高橋正隆が設立しました。花巻市誘致企業第一号の雪印乳業花巻工場の輸送を担うためでした。当時は花巻近郊でも酪農が盛んで、後にその子会社であり飼料会社の雪印種苗北上工場の輸送・荷役の契約を頂いてから我が社は飛躍的に発展を遂げました。時流に乗った感はありませんが、父の人徳による所も大であった気がします。私が父から受け継いだ一番の財産は、当時から父と付き合いのあった方々との人脈で、その方々とは今でも交流があります。亡くなってから23年経つ今でも、父が話題に出てきます。

その父から引き継いだ「和」の精神は、二代目として会社理念の中に取り込みました。前述の「FRESH」は単に新鮮とういう意味だけでなく、Fair（ルールを守り）、Regional（地域に根差した）、Evolution（進化し続ける会社を目指し）、Satisfy（顧客満足で）、Harmony（和をモットーとする）の頭文字を取ったものです。

物流業への進出

父が創業したのは運送業であり、トラックを動かす利益を生むことが基本でした。当時の荷主との関係は従属的で、仕事に対する提案等は一切受け入れられません。そんな関係に対してプラスチックを感じていた頃、物流二法が制定されました（平成2年12

月）。国の政策は規制緩和へと舵を切り、我々の貨物自動車運送業界も免許制から許可制へと新規参入し易くなったのです。当然、競争は激化し、運賃のダンピング合戦が繰り広げられました。私は物流の仕組みと自社の強みを意識し始めた頃で、規制緩和による路線トラックと区域トラック事業の免許区分の廃止に伴うニッチな部門に参入することを決めました。

我が社の強みは冷蔵のお客様の開拓にあると判断し、まずは小さな冷蔵施設を作ることからスタートしました。しかし、当時は売り上げの8割以上を大手食品メーカーである雪印が占めており、大得意先である雪印関連の方々との関係は非常にデリケートなものでしたが、ある時、雪印関連のある事業部長からこんな事を言われます。「雪印だってこの先



岩手雪運株式会社
（花巻市）
代表取締役

高橋 嘉信

どんな事が待ち受けているか分からない。一社依存は見直した方がよい」と。やっと堂々と事業展開が出来るお墨付きをもらった気分でした。

しかし、トラック一台借り上げ運賃が主流だった当時、一個口の荷物を集めて配送する『共配事業』は先進的ではあったものの現実には厳しく、幹部社員からの冷たい視線を感じる毎日でした。

雪印食中毒事件

平成12年夏、北海道で製造された雪印乳業の脱脂粉乳を使用した商品が原因の食中毒が関西圏で発生しました。同社に対する世間の不信感が増しに募り、小売店からは雪印の商品が次々と撤去、返品もできない牛乳が廃棄される様子が連日報道され、悔しい思いをした事を今でも鮮明に記憶しています。父は事件の3年前に他界していましたが、もし存命だったらどれ程辛い事だったでしょうか。愛する雪印の「雪」の字を社名に入れた父でしたが、岩手にも多くの雪印関連会社がありました。骨である花巻工場までもが閉鎖になりました。その頃は小口共配事業で利益を出すまでには至っておらず、大変苦しい時代でした。従業員には「これからは小口共配事業に特化する

るしか生きる道は無い」と、説き伏せました。今でも感謝している事は、当時の従業員約200名が誰一人辞めること無く付いてきてくれた事です。会社存続の為とは言え、大幅なコストカット等で大変な苦勞をかけた。ここでも先代の教え「和」の精神が生きていたような気がします。

これからの時代

今まで40年会社経営に関わってきた経験から言えば、会社存続のポイントは「変化に対応出来る組織であるか」の一点だと思えます。



最適な温度管理で効率配送する「FRESH LINE」

我が社も前述の通り節目で大きな出来事があり変化して参りました。そして今、新型コロナウイルスが経済に大きな影響を及ぼしています。我が社にも少なからず影響があります。他業界や同業種内と比較した時、小口冷凍冷蔵配送に特化した取り組みが結果的に功を奏したと言えます。

少子高齢化が進み、女性の活躍の場も増えてきています。家事の時間を減らす冷食のニーズがより高まる筈です。岩手には冷凍・冷蔵食品メーカーが多く存在します。我が社はきつと大きな力になることが出来ると確信しています。

この先、海外に目を向ける経営者も多い筈です。日本、特に岩手の人口は減り続け消費が減るからです。それを見越し、昨年通関業の許可を取得しました。岩手や東北の皆さんにとって貿易が身近になるよう、そしてリスクを少しでも減らすお手伝いができるよう、自ら身を置く「トレードいわて」を設立しました。

アフターコロナで増々ネット社会へと加速してゆく事でしょう。しかし、物を運ぶのはこれまでと変わらず人間が介在するトラックで在り続ける筈です。もう一度創業以来の『和』を充実させ、皆様と共にステップアップしてゆきます。